



岩田 惇さん

だれもがフレンドリー!

私がお世話になったホストファミリーは、親日家のコーベットさん一家です。家族思いのホストファミリー・ドリュウさん、子供が大好きなホストマザー・キムさん、去年日本に来たブライデン、一人暮らしをしている大学生の姉レイリー、中3の妹アベリー、何でも噛んでしまう愛犬のキャリアです。ドリュウさんは滞在中に私を国立航空博物館に連れて行ってくれました。旧型の飛行機が大好きなので「ライトフライヤー」などの旧型飛行機のゾーンで普段は見せないような笑顔で解説をしてくれました。



キムさんは病院で働いていることもあり、健康面をよく気使ってくれました。私のために健康でお肉と野菜のバランスが取れたレシピをたくさん用意してくれ、そのなかから「キノコパスタ」や「レタスで包んでポークチリ」を選ぶと楽しそうに作ってくれました。メキシコ風の料理もあり、初めて食べる料理が多かったです。お料理上手の母が作るのと同じくらい美味しかったです。ブライデンが去年日本で、規則正しく栄養バランスが取れた日本の食生活を体験したことをお母さんに伝えていたため、私のアメリカでの食生活が日本と似た食生活になるように気使ってくれました。

また、キムさんは子供達がお腹を空かしていることが嫌いなため「Are you hungry?」とよく気にかけてくれました。みんなも気にかけてくれたので「おなかすいた?」という日本語を教えると頑張って使ってくれたのが嬉しかったです。ほかに「暑い」や「寒い」や「のどが渴いた」を覚えてくれました。ホストファミリーに作った伊藤博文 vs 吉田茂クイズや日本語ゲームを積極的に楽しんでくれる明るい家族でした。



みんなでマクドナルドに行った時、「注文がタッチパネル」と「カード払い」というところに驚かされました。日本でもキャッシュレス化が進んでいますが私は体験したことがなかったので、機械の手軽さとキャッシュレスの便利さを感じました。しかし、機械のトラブルやお金を気付

かないうちにたくさん使ってしまう危険性もあるので注意を促しながらキャッシュレス化も進めていく必要があると思いました。



「だれもがフレンドリー」これが私がホームステイの中で一番思い出深かったことです。私がシカゴからデイトンに向かう機内で目にした初対面の人どうしの会話、レストランや買い物先では必ず店員さんが「How are you?」「What can I do for you?」と声をかけてくれるところ、私が参加したデイトン市と大磯町の「姉妹都市50周年」の祝賀会での子供たちとの交流、このようなところにアメリカ人のフレンドリーさを感じました。50周年式典では、たくさんのアメリカ人と日本人が参加し、デイトンの高校生が音楽を演奏したり、日本の武道家が空手や合気道を披露していました。私は折り紙で飛行機や兜の折り方を子供達に教えると、みんな興味いっぱい接してくれ、楽しい交流ができ、デイトンの子供達の温かさや50年続けている姉妹都市関係のすばらしさを感じました。



現在、身近に日米・日韓・米中・米朝など様々な問題があります。こういう時だからこそ、世界の平和を考えていく必要があると思います。私たちがこうして積極的に言語・文化・価値観の違う人々と心を通わせていくことの大切を感じました。日本はまだまだ言語・文化・価値観の異なる人々と生活することが当たり前ではありませんが少しずつ変わってきています。今回の経験を忘れずに留学生やAETの先生に積極的に話しかけて、まずは10月のマレーシア研修で実践していきたいと思っています。

今回、このような貴重な機会を与えてくださった多くの人々に心より感謝申し上げますとともにデイトンに哀悼の意を表します。

驚きと発見の二週間



鈴木 智也さん

私僕にとってデイトンで過ごした2週間は、すべてが驚きと発見の連続でした。まずはホストファミリーのDavisさん一家です。父親のアンドリューさん、母親のティファニーさん。16歳のAJは昨年姉妹都市派遣高校生として大磯に来ています。



このAJというのはアンドリュー・ジュニアの略です。15歳のクリスティンと13歳のアリソンの2人の妹と、4歳のおしゃべりな弟のジョナサンと里子の1歳と3か月の男の子2人です。その他にも犬三匹のジュウォー、ダイヤモンド、ギズモと馬が一頭の仲の良い大家族でした。僕はこんなに兄弟もペットも多いAJの家族をうらやましく思いました。

ホストファミリーは僕にゆっくりと分かりやすく話しかけてくれたおかげで英語が通じる楽しさを味わうことができました。会話は状況判断と理解し合いたいという強い気持ちがあれば言葉の壁を越えられることも実感しました。4歳のジョナサンだけは早口で苦労しました。

僕を温かく迎え入れ、初日から色々な所に案内してもらいました。2日目に見たトルネードの通過した道はたくさん木が折れていて、その凄まじさに驚きました。AJの家から500メートルしか離れていなかったのが怖かったそうです。

楽しかった所を3つ紹介します。「Kings Island」という遊園地と、AJの運転（アメリカは16歳で運転免許が取れるそうです）で行った「Sky Zone」という室内トランポリン施設、「Young's」という農園です。遊園地にはなんと7つのジェットコースターがあり、特に「The Beast」は、ギネスブックにも載っていて勿論一番楽しかったです。

滞在中、たくさん驚いた事がありますが、その中の5つを紹介します。1つ目は一般道路システムが高速道路並みに整備され、空港から家まであっという間についてしまいました。2つ目はMサイズの飲み物は日本のLLサイズぐらい巨大でした。これでコーラを飲んでいたら肥満が心配です。一方でレストランやバイキ



ングで食べ残しが多く、もったいないと思いました。世界には食べる物に困っている子供や先進国のフードロスが問題視されている今、食べられる量だけ取ったり頼んだほうが良いと思いました。3つ目は日没が遅く夜9時半にギズモの散歩に出て明るくてびっくりしました。4つ目はAJのおじいちゃんがボーリングがとても上手だった事です。最後に、人と人の距離が近いところです。見知らぬ人も親切で僕の為にドアを開けてくれたり、気軽に話しかけてくれました。ホストファミリーがお店の人に「日本から来たんだよ」と紹介してくれると、日本語で話しかけられる事もありました。どこに行っても笑顔で挨拶を交わし合っていました。

最終日の「姉妹都市締結50周年」祝賀会で僕は剣道を紹介し、面や胴を竹刀で打つ体験をしてもらいました。アメリカの剣道人口は世界の中で0.2パーセントなのに剣道家に会えた事は嬉しかったです。剣道は人間形成、感謝と奉仕の気持ちを大切にし平和を尊重します。だから剣道をもっと知ってもらいたいと思いました。



お互いの国を訪問したAJとは今後も交流を深めずっと友達でいたいと思います。アメリカの生活習慣に触れもっと海外の文化の違いを知りたくなりました。僕はこの派遣の経験を活かし次のチャレンジはもっと英語を勉強して、アメリカの大学に進学することです。

大磯町と国際交流協会の方々、お世話になったDavisさん一家に心から感謝申し上げます。

最後にこんな平和なデイトンで最終日の深夜に起こった乱射事件や、緑豊かな街を5月に襲ったトルネードの被害にあった方々に哀悼の意を表します。



夢の2週間



山口葵さん

今回、私がお世話になったホストファミリーは、毎日いろいろな場所へ連れて行ってくださいました。

ホストファザーのKevinさんとホストマザーのBrittneeさんは日本に住んでいた経験があり、日本語が上手でとても優しい方でした。

EzraとGusもすでに1～10を日本語で数えられてとても驚きました。2人がたくさん話しかけてくれたおかげで、すぐに仲良くなれました。サイクリングに行ったり、鬼ごっこやかくれんぼをしたりしました。



キャンプではホストマザーの親戚がたくさん集まり、私を温かく迎えてくれました。特に同世代の友達とはとても仲良くなりました。アメリカならではの外の遊びやスプーンを使って



やるトランプなどをみんなと初めてやりました。みんなは日本にとても興味があり、和食や祝日などの文化についてたくさん聞いてくれました。アニメやディズニー、ジブリなどは世界共通だったので、とても盛り上がりました。アメリカと日本では、タイトルの言い方が全く違かったことに驚きました。キャンプファイヤーもして、ギターや打楽器と一緒に歌いました。夜空は今までで一番綺麗で、人生初めての流れ星を5回も見ることができました。

姉妹都市提携50周年記念ということで、たくさん貴重な体験をさせていただきました。デイトンの市長さんと夕食を食べたり、市議会で前に立って自己紹介をさせていただいたりしました。野球観戦ではVIP席から見ることができ、ピザやポップコーンが食べ放題でした。交換留学生として3人でステージに立たせていただいた時は、観客の方たちがとても温かかったです。



式典ではマーチングバンドや剣道や合気道、コーラスなどを披露してくれました。市民の方もとても楽しそうにしていました。私が担当した書道では、私の書いた見本の「日本」や、体験してくださいった人の名前をカタカナで書いてもらいました。初体験の方でも上手に書けていました。剣道では竹刀を持って体験したり、折り紙では鶴や手裏剣を作ったりしていました。手裏剣は子どもたちに人気で、私もいくつか作ってあげたら、家に帰ってもずっと遊んでいました。



この2週間でたくさんの方と出会う、笑顔でコミュニケーションすることの大切さに改めて気づきました。お店に入れば店員さんが必ず「How are you?」と声をかけてくれました。最初はとても緊張しましたが、返事することが習慣づいてきて次の店ではどんな会話ができるかとても楽しみでした。誰かと目があえば、「Hi!!!」と笑ってくれるのがとても嬉しかったです。



ホストファミリーは日本が大好きで、家にも日本のものがあるいくつかありました。私が味噌汁を作ってあげたら「美味しい!」と喜んでくれました。子どもたちが法被と甚平を着ていたので私も浴衣を着てみせたら「綺麗!」と褒めてくれました。

今回デイトンへ行って、初めてのことでばかりで英語で過ごす生活は私の人生で一番楽しくて、一生の宝物になりました。もっと英語を勉強してまた外国へ行きたいです。

このような貴重な体験をさせていただき、大磯町と国際交流協会の方々に心から感謝申し上げます。

